

様式第2号（第3条関係）

行政視察等報告書

平成29年 2月16日

米子市議会議長様

会派名 公明党議員団
代表者氏名 安田 篤
提出者氏名 今城雅子



下記のとおり報告します。

記

項目	<input type="checkbox"/> 現地調査 <input checked="" type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 <input type="checkbox"/> 研修会への参加 <input type="checkbox"/> 会議への参加
参加者	安田 篤・前原 茂・今城雅子・矢田貝香織
期日	平成29年2月9日から平成29年2月11日まで
〔概要〕（年月日・場所・内容）	2/9 エスフォルタアリーナ八王子 PFI活用による総合体育館の整備・運営について 担当；八王子市 生涯学習スポーツ部 スポーツ施設管理課 2/10 足立区役所 足立区孤立ゼロプロジェクト推進事業について 担当；足立区 地域のちから推進部絆づくり担当課 （大雪のため2/10 帰路の飛行機が欠航となり宿泊。） 2/11 羽田空港より飛行機（2便）で帰着
〔所感〕	別紙記載
経費	旅費総額 276,860円

【所 感】

○エスフォルタアリーナ八王子 「PFI活用による総合体育館の整備・運営について」

説明者；八王子市 生涯学習スポーツ部 スポーツ施設管理課長 佐藤晴久氏

人口 576,000 人強の八王子市において、従来 2 か所の体育館であったことから、各競技団体や市民の方から、新設での総合体育館の要望があり、新体育館整備・建設へ着手された。

「新体育館整備・運営事業」は P F I 手法を用いて進められ、必要性はあるものの巨額な資金を投入捨て新しい施設を整備するので、施設の長寿命化を図るとともに、ライフサイクルコストを縮減・平準化して、しっかりとした予防保全を行うメリットがあることを学んだ。市部ではあるが、東京オリンピックも見据えて都会での新設公共施設の整備手法としては有効な手法であると感じた。

本市内では、既存の各種体育施設が整備されている現状において、「新・米子市民体育館」をアリーナ形式で整備・運営を目指す場合においては、本市の人口動向を考えたときに、この手法が果たして有効かどうかは一考の余地があると感じた。

○足立区役所 「足立区孤立ゼロプロジェクト推進事業について」

説明者；足立区地域のちから推進部絆づくり担当課長 永井章子氏

東日本大震災の発生により、不安で避難所等に高齢の住民が身を寄せられたことがきっかけとなり、今後の区民相互の連携において、住民の孤立化となる状況が懸念された。

その解決のために、区長をはじめ、関係部・課の「住民を孤立させない」という強い信念のもと、まず「足立区孤立ゼロプロジェクト推進条例」を制定された。

この条例に基づき、孤立状態の定義を決め、寄り添い支援活動を推進するための「実態調査票」を町会・自治会を通じて粘り強く推進し、孤立状態の傾向を分析し包括支援にもつなげる活動となっている。

担当する「絆づくり担当課」の職員 8 名で年間、延べ数千回、孤立ゼロを推進する地域の町会・自治会に出向いて、その結果を地域へフィードバックすることを行っている。

地域からも「面倒な調査や寄り添い支援であっても、その結果が確実に『孤立ゼロ』に繋がる」ことを認識してくださり、その活動がやりがいになっていることに感銘を受けた。

本市でも、地域力の向上と防災や包括支援への対策として、このような取り組みは非常に有益であると感じた。

まず、このような条例制定を視野に、更なる調査・研究をする必要を感じた。

非常に、参考になった内容であった。